

支那の茶

題字/北出不二雄

発行
NPO法人 さろんど九谷
〒922-0861
石川県加賀市大聖寺地方町1-10-13
石川県九谷焼美術館内友の会事務局
TEL・FAX 0761-72-6366
<http://www.salon-de-kutani.jp>
発行人 / 古田 章子

石川県九谷焼美術館友の会会報「ふかむらさき」

2021.7.1 第38号

オンラインショップ 開店記念

茶房古九谷が選ぶ

涼を運ぶ 茶器三昧

年間、数百点もの陶磁器を展示する
茶房古九谷が選りすぐりの逸品を
ご提案します。
加賀地方に工房を構える約三十名の
作家の中から日々の暮らしを彩る品々
をご紹介します。



白瓷水注 / 青白瓷煎茶碗
池島保雄 作 ¥44,000 / ¥5,170 (一客)

ONLINE SHOP NEW OPEN

令和3年3月、さろんど九谷はWEBサイトをリニューアルしました。

「オンラインショップ」や「テレビ電話によるオンライン来店」など
どうぞご利用ください

茶房古九谷の店内ではギャラリー企画展のテーマに沿った作品を展示しています。その他にも作家別にとっておきの作品をご用意しています。お好みの作品探しのお手伝いをさせていただきますのでお気軽にご相談下さい。



いろえ金彩小鉢
高山和夫 作
¥27,500



粉引印花掛花
中村久一 作
¥14,300



色絵南天文角香炉
青泉窯 作
¥70,000



小鉢草花
苧野憲夫 作
¥8,800



色絵染付荷葉形小付
橋本 薫作
¥5,280



つくつく碗
真鍋千恵子作
¥19,800



市松文ソバ猪口(小) 麻の葉文ソバ猪口(小)
鈴木敬夫作
¥2,750 (一客)



陶胎青手甲鉢
嶋田寿楽作
¥8,800



八稜プレート
佐藤 亮作
¥19,800



四弁花皿 (2枚組)
山下一三作
¥17,600

配送可能

取り置き可能

参加無料

予約制

オンライン来店で 暮らしを彩る品を見つける。

ご準備いただくもの

- ・テレビ電話に繋がるパソコンやスマートフォン、タブレット端末など
- ・インターネット環境（Wi-Fi推奨）

ご参加までの流れ

1. さろんど九谷の公式サイトより、希望日を予約する。
2. スタッフからテレビ電話の参加方法について返信を受ける。
3. 当日、インターネットに接続された環境から参加する。

さろんど九谷公式サイト <https://www.salon-de-kutani.jp>

オンライン活用術

- ・期間限定の商品情報をいち早く知ることができます。
- ・気になる作家の新作を見ることができます。
- ・店頭に表示されていない、棚奥の商品もご覧いただけます。

<https://salon-de-kutani.stores.jp>



「空想のいきもの」 石川県九谷焼美術館学芸員 神尾千絵

「空想のいきもの」というテーマ

今年で18回目となる小学生対象の九谷焼絵皿イラストコンクールは、毎年、募集するイラストのテーマ（画題）設定に苦労している。古九谷や吉田屋窯、宮本屋窯などの作品には様々な画題で絵付けが施されており、大体それに倣って「花」「植物」「動物」などのテーマを設定してきたが、「海の生き物」「森の生き物」などと多少言葉を入れ替えるなどしてローテーションを繰り返していた感は否めない。昨年はオリンピック・パラリンピックが開催されるはずの年だったため、「スポーツ」をテーマに募集をしたのが目新しいところであった。今回は初めて「空想のいきもの」というテーマで募集することとなった。

これは当館の武腰館長の思いつき…ではなくて「ひらめき」に端を発するテーマ設定であったが、一瞬戸惑いを感じたのは確かである。その戸惑いの原因は何かと言うと、そんな曖昧模糊としたテーマで一体どのくらいの応募があるだろうか、という不安からくるものであった。しかしすぐに、九谷焼はもちろん、古くから残る様々な美術品には、この世で（もしかしたら存在はするのかもしれないが）誰も実見したことのないものが描かれている事実には思い当たり、なるほどと思つたものである。

九谷焼に描かれた空想のいきもの

さて、当館で所蔵する作品の中にどんな「空想のいきもの」があるだろうか。真つ先に思いつくのが龍である。鱗や髭の緻

密さ故、浅井一毫（天保7〜大正5・一八三六〜一九一六）や竹内吟秋（天保3〜大正2・一八三二〜一九一三）などの赤絵細描の名手により描かれた龍が思い浮かぶだろう。【写真1】

青龍・朱雀・百虎・玄武（以上四神）や麒麟は中国由来の伝説のいきものであり、焼き物に限らず、中国からもたらされた墨画や画譜を絵手本（粉本）としてきた狩野派の作品でもよく描かれている。これらの霊獣の他に、中国の伝説も画題となることは多い。伝説上の「人物」がそもそも空想のいきものである。特に仙人とよばれる人達を描いた図像には、鯉に乗って登場する仙人、空中に浮かぶ仙人など様々なものがある。当館所蔵の龍宮図平鉢

【写真2】は龍の口から出る「氣」に楼閣が



【写真2】吉田屋窯 龍宮図平鉢 当館蔵



【写真1】竹内吟秋 赤絵金彩龍図花瓶 当館蔵

描かれており、蜃気楼を描いた図とされる。

蜃気楼は元々、その字が表しているように「蜃」（中国の『史記』では大蛤、『本草綱目』では龍の一種とされる）が「氣」を吐いて「楼閣」を浮かび上がらせるといふ言い伝えから生まれた言葉である。江戸時代に流行し、様々な工芸品の図柄として表される蜃気楼図は、文化2年

（一八〇五）刊行・鳥山石燕画の「百鬼夜行拾遺」にも紹介

されている図【写真3】のように、大きな蛤から吐かれた気が楼閣を形作っているものであり、本作品のように龍が

氣を吐いている様子を描いた図柄は同時代のもものでは他に見つからない。江戸時代中期の正徳2年（一七一二）に成立した『和漢三才図会』は

大阪の医師寺島良安により編纂されたいわば百科事典だが、この「巻第四十五 龍蛇部」に「蜃」といふ龍の仲間が紹介されている。【写真4】

図柄としては蛤よりも威厳のある龍の方が断然、全体の特徴も締まるし、吉田屋窯



【写真3】



【写真4】

のブランドイメージには合うように思う。

このようなところからも吉田屋窯（＝吉田屋伝右衛門）の教養の深さと卓抜したデザイン感性を感じ取れるのではないだろうか。

少し話はずれれるが、中国の仙人を描いた『列仙全伝』【写真5】の中の図像をいくつか見ると、海や雲海から現れる仙人を描く波や雲の描写は、

当館所蔵の古九谷「竹虎図平鉢」【写真6】との共通性が高い事に気付く。江戸後期の吉田屋窯「龍宮図平鉢」にみえる、完全にデザイン化された

波の表現（青海波文様）とは異なる波の表現であり、虎の尾周辺の波頭の表現もこれに倣ったものと見ることができ。渦巻状の雲の表現は古九谷や吉田屋窯作品の裏面にも時折見られる表現である。



【写真5】



【写真6】

中国と日本の空想のいきもの

日本の美術史を語る上で、中国美術の影響を抜きにしては語れないし、室町時代からの墨画の受容や先にも述べた粉本主義が基本の狩野派を中心とした御用絵師の存在感は大い。

日本人は外国文化をうまく受容し、日本独特の文化に昇華させることが得意だとよく言われる。現代の例で言えばクリスマスやハロウィンなどがいい例である。

日本において描かれた空想のいきものは、中国から入ってきた文化をうまく取り込みつつも、日本ならではの柔らかさ、ユルさを感じられるように思う。

中国の空想のいきものを紹介した書誌で有名なものに『山海経』【写真7】がある。これは中国で紀元前4〜3世紀頃に成立したとされ、平安時代には既に日本に入り、江戸時代には流布していたものである。『山海経』に掲載されたいきもの（妖怪）達



【写真7】『山海経』の一部

は日本に輸入され、例えば九尾の狐のように物語化され、工芸品の図案や浮世絵にも描かれている。

しかし、水木しげるの漫画や近年流行のコミックやアニメに出てくる妖怪たちはむしろ日本で生まれたものがほとんどであろう。

日本における空想のいきものを描いたものでは「百鬼夜行絵巻」が代表的である。一口に「百鬼夜行」と言っても、一番古いものでは室町時代に土佐派の絵師により描かれたとされるものをはじめとして、数多く描かれている。漢画のようなカチっとした厳格さとは異なり、柔らかさ、いい意味での脱力感があり、妖怪でありながらも身のまわりの生活道具や動物がモチーフになるなど、どこかおどけた雰囲気や漂う。他にも江戸時代後期に描かれた「化物尽絵巻」なども愛嬌のある化け物が描かれ、現代の我々から見ても楽しい絵巻になっている。（便利な時代になり、今ではネットで検索すれば簡単に画像を見ることができるのでぜひ検索してみしてほしい）

今回のイラストコンクールでは、常識や規範に凝り固まった私（達）とは違い、まだまだ自由な発想、のびやかな創造力を持っている小学生の皆さんから、どんな「空想のいきもの」が出てきたのか、楽しみなどころである。

そして、そのいきもの達が九谷焼作家によってどのような作品に仕上がるのかもこの作品展の見どころになっている。

※写真3・4・5・7は国立国会図書館ウエブサイトより転載

第18回九谷焼絵皿イラストコンクールは

令和3年7月22日(木)〜9月26日(日)開催予定

▶ 石川県九谷焼美術館 展覧会のごあんない

加賀市・台南市友好都市交流記念 九谷焼絵皿イラストコンクール展

令和3年 7/22(木) ~ 9/26(日)

小学生対象の「空想のいきもの」をテーマにしたイラストコンクール。入選作計200点と優秀作品をもとに九谷作家が制作した絵皿16点を展示。(企画展示室のみ無料)

特別展 吉田屋と粟生屋の至宝

前期: 10/2(土) ~ 12/5(日)

後期: 12/11(土) ~ 令和4年 2/13(日)

東京国立博物館、京都・野村美術館、愛知県陶磁美術館、鶏声磯ヶ谷美術館等所蔵の門外初出品の吉田屋や粟生屋をはじめ、加賀の地元によく残る名品を一堂に展示する。

▶ 茶房古九谷ギャラリー 企画展のごあんない

草青む 4/23(金) ~ 7/7(水)

こものあそび 7/9(金) ~ 9/15(水)

しつらえ愉し 11/26(金) ~ 令和4年 2/9(水)

妙々五彩 2/11(金) ~ 4/20(水)

友の会会員を募集しています

■ 個人会員 3,000円…個人単位で入会

■ 家族会員 4,500円…家族の代表者名で入会

※ただしご入会家族のお名前を事前登録させていただきます。
資料等の配布は一人分のみとさせていただきます。

会員特典

- ・ 石川県九谷焼美術館の入館無料
- ・ 広報誌「ふかむらさき」郵送
- ・ 毎月行事案内郵送
- ・ 会員限定行事への参加およびその他主催行事への優先参加、会員割引など(視察研修旅行、ナイトコンサートなど)
- ・ 石川県立美術館コレクション展などの観覧料が団体料金

▶ お問い合わせ・連絡先 石川県加賀市大聖寺地方町1-10-13 石川県九谷焼美術館内友の会事務局
TEL・FAX 0761-72-6366 E-mail: info@salon-de-kutani.jp